

海洋ごみ問題 ～プラスチックごみ問題編～



海洋プラスチックごみ問題とは

海洋プラスチックごみ問題とは、野外に捨てられたレジ袋やペットボトル、漁具などのプラスチックが海に漂い続けることに起因する国際的な問題です。背景には、**プラスチックが自然に分解されない**ということが大きく関係しています。

海岸や河川に漂流するごみは、風や潮流等の影響により特定の場所に溜まり、洪水などの災害の一因になります。また、クジラやウミガメ、海鳥などがエサと間違えて食べてしまい、死んでしまうこともあります。

プラスチックごみが長い間かけて紫外線や波によって細かく碎かれ、5mm以下の小さな断片は「**マイクロプラスチック**」と呼ばれます。

プラスチックには化学物質を含有・吸着する性質があるため、小さな魚介類がエサと間違えてマイクロプラスチックを食べてしまった結果、有害物質が体内で濃縮され、食物連鎖を通じて生態系や人体に悪影響を及ぼすのではないかと懸念されています。

陸域

海域

洪水の一因



細分化



ごみのポイ捨て

マイクロプラスチック



有害物質が吸着

小魚がエサと間違えて食べる

食物連鎖

大きな魚が小魚を食べる

生態系への影響



プラスチックがからまったウミガメ



NOAA(アメリカ海洋大気局) 胃の中にプラスチック類が入っていたアホウドリ

人の健康への懸念

人が魚を食べる
↓
有害物質の摂取



網に入ったごみを分別する漁師

環日本海環境協働センター

ゴーストフィッシング (海底に残された網にかかった魚)

私たちにできること

- レジ袋などの不必要なものをもらわない
- マイバッグ・マイボトル・マイ箸を使う
- 過剰包装の商品を選ばない
- 詰め替え品などのごみの少ないものを選ぶ
- 使えるものを繰り返し使う
- ごみ分別の徹底
- 家庭のごみを集積所に出すときは、ルールに従ってごみが散乱しないように注意する
- ごみをポイ捨てしない
- 地域や海岸の清掃活動への参加
- プラスチックごみ問題を知る・伝える

世界のプラスチック生産量

50年で20倍以上 (1964年から2014年)

世界の海に流れ込んでいるプラスチックごみ量 年間800万t(推計)

…世界人口77億人だとすると、1人当たり約1,039g

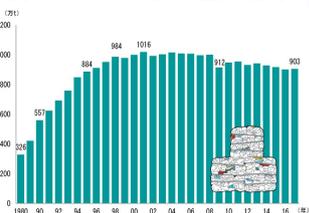
※このままでは2050年までに海の魚の重量を上回るという予測もある。

日本の1人当たりのプラスチック容器包装廃棄量 世界で2番目 (2018年)



1週間でクレジットカード1枚分(約5g)のプラスチックを摂取しているという海外の研究もある。

廃プラスチック排出量の推移



(出典:一般社団法人産業環境管理協会 資源・リサイクル促進センター)